

建築・都市



キーワード：集合住宅、共用空間、こども

子どもの成育環境からみた集合住宅における現代の子育ち・子育て－健康的に住まうために

理工学部 建築学科 教授

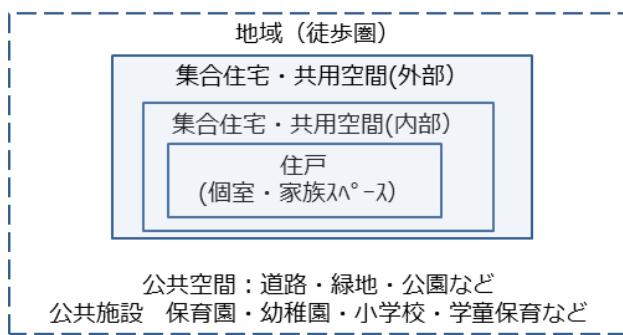
大谷 由紀子 OTANI Yukiko

研究の内容

民間分譲マンションが普及して半世紀余り、これまでに幾度かのブームを経て、マンションは都市部の典型的なすまいになっています。かつてはマンションは、若いファミリー層が、郊外の庭付き一戸建てを取得するまでの一時的なすまいであったが、利便性、永住志向の高まり、都心居住の推進等を背景に、恒久的なすまいとなりつつあります。今ではマンションで生まれ、マンションで育ち、成人するこどもも少なくありません。

一方で、未だ、バリエコニーや窓等からこどもが転落する痛ましい事故が後を絶ちません。マンションの共用空間に設けられた屋内や屋外のあそび場は、いつの間にか多くの使用ルールが付加され、使いにくい・使えない空間になっている事例が散見されます。逆に、共用空間でのイベントや活動を通じて、子育て中の人々だけでなく多様な居住者と知り合う事例もあります。本研究室では、集合住宅をこどもが育つ環境という視点から、安全で健康的にすまうための住環境を研究しています。

子どもの成育環境を構成する要素



→ あそびを構成する3つの間：仲間・時間・空間
(仲間のなかにあそびの継承も含む)

あそびを支える6つの空間
近年は空間マネジメントも必要



下図の出所「子どもの成育環境」
JIAレビュー, 2020, Vol. 7

産学連携・社会連携へのアピールポイント

都市部では集合住宅に居住する子育て世帯が非常に増加しています。本テーマにかかわる研究成果は、集合住宅の需要サイド（子育て世帯、若年世帯）を中心に、供給サイド、公衆衛生関係機関等に情報共有します。

- ・集合住宅の形態と特徴
- ・住宅選択における留意点
- ・子育ち、子育てからみた形態別のメリットとリスク
- ・中高層居住における緊急時の備え、その後の生活の課題 など

研究者総覧（大谷 由紀子）

URL : http://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001045_ja.html

